

# 令和3年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	33	学校名	県立茨城東高等学校					課程	全日制		学校長名	山崎 浩之				
教頭名	齋藤 靖										事務(室)長名	関 明美				
教職員数	教諭	34	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	7	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	54
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計		クラス数	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		35	28	49	36	55	49			139	113	9			

## 2 目指す学校像

<p>「夢・希望・自己実現」のテーマの基に</p> <p>(1) 新たな夢・目標を常に持ち続け、自己の可能性を伸ばす。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立し、基礎学力を向上させ、進路希望の実現を図る。</p> <p>(3) 気力・体力・忍耐力を養い、社会に必要とされる人間の育成を図る。</p>
--

## 3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板を取り入れた授業が生徒に受け入れられており、授業に対しての興味関心を持つ契機になっている。特に学校設定科目「ベーシックトライ」では電子黒板の活用と反復学習が奏功し、基礎学力や学習意識の向上が見られた。</li> <li>学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いていない生徒がいる。</li> <li>学習に対する目的意識が希薄で、目標設定がなされていない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板及びタブレット型パソコンの利活用の更なる工夫。</li> <li>日頃からの教材・指導法の工夫改善による、分かる授業・達成感の持てる授業の実践。</li> <li>何のために今学んでいるのか、という学習の目的を生徒に認識させる授業の実践。</li> <li>家庭学習の習慣化を図る。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校設定科目である「キャリアデザイン」と「ベーシックトライ」を導入した効果が表れている。</li> <li>学校紹介による就職内定率は高い水準を保っている。</li> <li>推薦入試やAO入試を利用した上級学校への進学者が多い。看護専門学校に一般入試で受験をし、合格をする生徒が出た。</li> <li>令和2年度の公務員合格者は、1名である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次の目標を明確にするとともに、3年間を見通したより計画的・系統的な指導による「キャリアデザイン」に係る取り組みの推進。</li> <li>就職に関しては、高い内定率を得ているが、内定後の辞退者や入社後の早期退職者がでないように、今後も早期からの就職に対する意識付けと面接指導等を行う必要がある。</li> </ul>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識や、基本的な生活力に欠ける生徒が目立つ。</li> <li>・自己中心的な立場から物事を判断し、協調性にやや欠ける生徒が目立つ。</li> <li>・自己効力感の低い生徒や、家庭環境が複雑な生徒など、悩みを抱えた生徒も多く、丁寧な指導が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に大学進学希望者等を対象とした課外や個別指導の充実と模擬試験等のさらなる活用。</li> <li>・生徒の規範意識の高揚，基本的な生活習慣の確立を目指す指導の徹底（身だしなみ指導，形態指導，遅刻指導など）。</li> <li>・学校教育全般を通じた道徳教育の充実。</li> <li>・スクールカウンセラーの積極的活用による教育相談体制の充実などを含めた組織的な生徒指導体制の構築（報告・連絡・相談）。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率が約 30%であり，運動部では，本校単独での大会出場が難しい部活動がある。しかし，どの部活動も上位大会出場などの目標を掲げ，毎日練習に励んでいる。また，文化部においても，上位大会出場を目標にした，創作活動に熱心に取り組んでいる。</li> <li>・生徒会及び常任委員会は，生徒が主体的に活動できるようになりつつある。</li> <li>・自然環境保全活動団体「We are 潤沼っ子！」の設立にともない，校内外において，ボランティア活動等を実施することで，地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を培っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率 40%を目指した部活動の奨励と，上位大会出場を目標に掲げての，一層の指導の充実。</li> <li>・生徒が活躍できる場所と機会を増やすための定例かつ偏りのない常任委員会活動の実施。</li> <li>・校内外において，ボランティア活動や体験的な活動を奨励し，地域社会とのつながりとともに一人一人の心の成長を図る。</li> <li>・キャリア・パスポートの有効な活用を図る。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月につき，勤務時間外の校内在校時間合計が，80時間を超える職員は少数であるが，45時間を超える職員は5人から10人いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間外の校内在校時間が，ほぼ全職員に該当するので，勤務時間外の校内在校時間の縮減に努める。</li> </ul>

#### 4 中期的目標

- (1) 健全で調和のとれたたくましい人間育成のため，規範意識の高揚と基本的な生活習慣の徹底を図り，道徳教育の確立を図る。
- (2) 確かな学力を身に付けるため，自発的な学習態度や家庭学習の習慣を身に付けるための指導法を改善し，基礎学力の向上を図る。
- (3) 生徒の進路意識の高揚を図るため，キャリア教育を充実するとともに，ガイダンス機能を充実させ，進路指導体制の確立を図る。
- (4) 働き方改革について，職場環境を整備するとともに，職員の意識改革を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) アクティブスクールに係る取組等の充実	① 全教職員の共通理解のもと、アクティブスクールの取組を推進する。 ② 生徒、保護者、地域の要望を適確に把握し、特色ある取組の充実を図る。 ③ 学校規模、生徒の実態等と照らし合わせ取組を検証し、必要に応じて改善に努める。
(2) 基礎学力の定着と応用力の育成	① 新学習指導要領の実施に向け、「ベーシックトライ」の工夫と改善を図る ② 習熟度別学習や少人数指導により基礎学力の確実な定着及び応用力を育成する。 ③ アクティブ・ラーニング、ICTを活用し、授業の改善を積極的に推進する。 ④ 教員による授業相互参観や校内研修等を実施して、指導力の向上を図る。 ⑤ 家庭学習の習慣化を図り、チャイム着席指導を徹底することで授業を大切にする意識を育成する。
(3) 生徒一人一人に適した進路指導の充実	① 3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人の興味、関心、適性等に応じた指導を推進する。 ② インターンシップやデュアルシステムを積極的に推進し、望ましい勤労観・職業観を醸成する。 ③ 模擬面接指導、各種模擬試験や検定試験等へ対応する課外授業の充実を図る。 ④ 進路に関する情報の共有化及び生徒・保護者への提供方法の工夫、改善を進める。
(4) 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	① 全教職員の共通理解のもと、厳格な態度と常に生徒に寄り添い生徒の指導に努める。 ② 全教職員で生徒の問題を共有し、段階的な特別指導を徹底する。 ③ 時間を守るなど基本的生活習慣を確立させる、生徒の自己管理能力を育成する。 ・欠席、遅刻、早退をしない、身だしなみを整える、挨拶を励行する等の指導を行う。 ・礼儀作法や公共マナー、交通マナーの定着のための指導を行う。 ④ スクールカウンセラーを積極的に活用し、家庭と学校との連携を図る。
(5) 特別活動の充実	① 学校行事、HR活動、生徒会活動、各種委員会活動の活性化を推進する。 ② 部活動の加入率の向上と継続的な活動の支援に努める。 ③ 体験活動への参加を通して、好ましい人間関係づくりとコミュニケーション能力の育成を図る。 ④ キャリア・パスポートに、特別活動等における活動記録や自己評価を記入させ、振り返りに活用させる。
(6) 地域から期待され信頼される学校づくりの推進	① 家庭、同窓会や地域と連携し、地域に開かれた学校づくりを展開する。 ② 広報活動をより一層充実して、学校の教育活動や生徒の活躍する姿を積極的に発信する。 ③ 事件・事故の未然防止に努め、安全・安心な学校づくりを進める。
(7) 働き方改革	① 学校として担うべき業務を整理、明確にする ② 教職員の理解のもと、校務に関する業務改善を進める。